

行雲流水

No. 9 9 令和3年9月24日発行

あくまでもICTは、上手に使うもの

校長 寒河江 正人

秋分の候。**ヒガンバナ**が咲き並ぶ季節となりました。
気持ちの良い秋晴れの日です。

昨日の山形新聞に、高橋信清教諭と小関克利教諭の姿が掲載されました。
9月21日（火）に本校を会場に開催された「**公開授業実践発表会**」の様子です。
県内約30校からの参加者をオンラインで結び、実施しました。

本校は、山形県教育委員会の「**ICT活用による学習活動充実の推進事業**」として、
東根市教育委員会から「**ICT教育推進拠点校**」の指定を受け、取り組んできました。

その成果として、**6つの授業実践事例を紹介し、その内の3つの授業について研究協議**を行いました。

鈴木翔悟教諭の2年1組の社会、奥山めぐみ教諭の2年5組の理科、そして高橋信清教諭の3年4・5組の保体の授業に取り組む生徒諸君の授業の様子が映像で紹介されました。
仲間と話し合う姿あり、じっと真剣に実験に臨む姿あり、タブレットの映像を見て意見を出し合う姿あり。生徒諸君の日頃のありのままの姿がいきいきと映し出されました。

（なお、廣谷恭平教諭の2年2組の数学、筒井絵理子教諭の2年4組の英語、森勇人教諭の2年3組の国語は、実践事例として紹介されました。）

「**ためになった。参考になった。今後の授業づくりに役立てようと思った。**」等、多くの声が寄せられ、私たち本校の教職員にとっても、貴重な**気付きや学び**が得られる機会でした。

ICT教育（情報通信技術を活用した教育）は、あくまでも「**手段**」に過ぎません。
大切なのは、生徒諸君一人ひとりが授業を通して「**どんな気付きや学びが得られたか。**」
ということです。その「**おらいを達成するための手段の一つ**」に過ぎないのです。

確かに「**スマホやタブレットなどの情報端末**」は、**便利なツール（道具）**です。
しかし、どんなに便利なツール（道具）でも、**過度に依存したり、生活を振り回されたり、**
トラブルの元になったり、こんな**主客逆転**することだけは、あってはなりません。
「**道具は、使う物であって、人間が使われて（振り回されて）は、あまりに愚かです。**」